

令和5年度 環境厚生常任委員会行政視察報告書

1 参加委員

(委員長) 花田 慎 (副委員長) 岡崎 進

(委員) 山崎 広子 (委員) 新倉 真二 (委員) 豊島 太一 (委員) 今井 理華 (委員) 清野 匡志

2 視察日時

令和5年11月8日(水曜日) 午後1時30分から午後3時00分

3 視察先

新潟県三条市

4 視察事項

(1) 厚労省 健康寿命を伸ばそう！アワード 食を通じた生活習慣病予防事業について

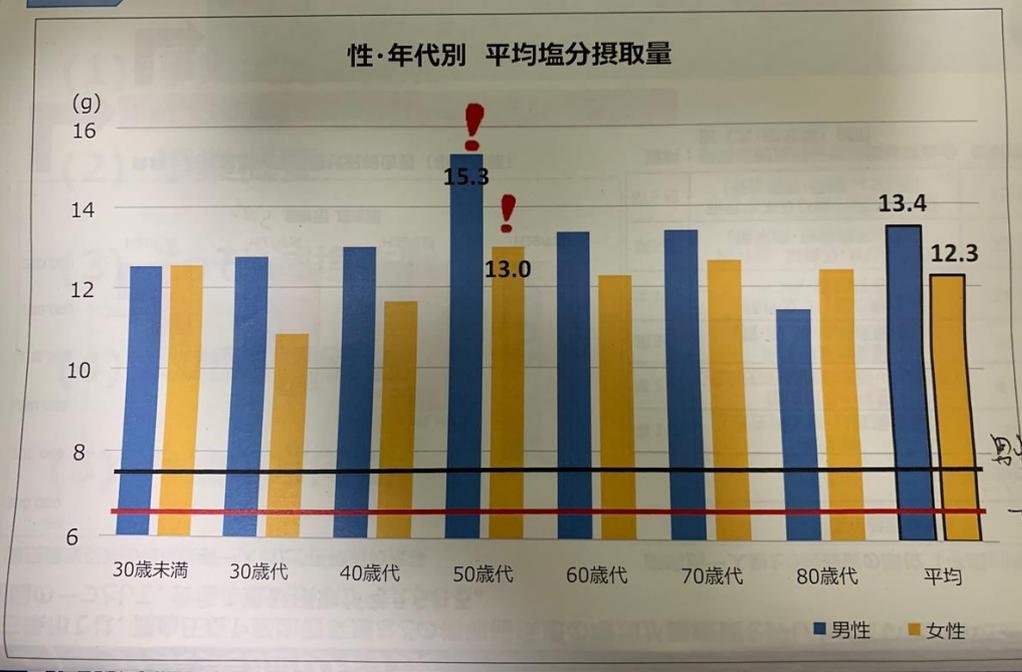
5 視察概要

	(担当 清野匡志)
視察先選定理由	政策討議のテーマである「健康都市ちがさきをめざして」の先進事例として厚労省健康寿命を伸ばそう！アワードを受賞した新潟県三条市の食を通じた生活習慣病防止事業について、学び参考にするため選定した。
内 容	<p>事業概要「食を通じた生活習慣病予防事業」について</p> <p>三条市では高血圧症や脳血管疾患などの循環器疾患の増加が医療費を押し上げていた。循環器疾患要因の一つとして、食塩の過剰摂取が考えられる。塩分の摂取状況に関する調査で推定食塩摂取量は多くの年代で目標量を5g以上上回っていた。</p> <p><食環境整備></p> <ol style="list-style-type: none">こっそり減塩作戦地産地消推進店における健康な食事の提供事業（スマートミール） <p><啓発活動></p> <ol style="list-style-type: none">適塩パンフレットを活用した啓発日常的な外出先での啓発活動

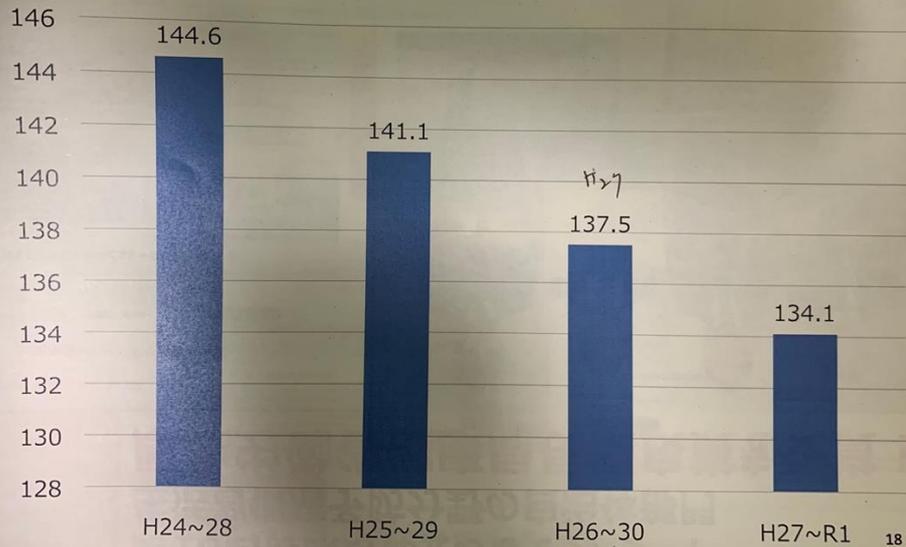
効果、推移 (グラフ参照)

— 塩分摂取状況調査結果 —

結果1 推定食塩摂取量は、多くの年代で目標量を5g以上上回っていた



脳血管疾患の死亡率 (人口10万対の5年間平均)



課題

- ① 市民の塩分摂取量を把握するための取り組みが必要となる。
- ② 減塩のロゴマークを活用して取り組みの認知度を数値化し、事業評価に生かす必要がある。
- ③ スーパー以外の飲食店等での減塩に対する取り組みの協力が必要である。

今後の方向性

- ・ 特定健診にて、尿中の塩分調査を実施して新潟県立大学と連携して客観的な評価を行う。
- ・ 減塩に対する取り組みの拡大に向け、飲食店組合に協力を募っていく。

考 察

本市との比較

社会背景として共働き世帯、高齢者世帯の増加に伴い惣菜や弁当のニーズが高まっていることは同じであると考えられる。

本市への事業導入の可能性

生活習慣病予防は財政、医療費の抑制にも有効であり取り入れていく方向で進めるべきである。

今後の検討内容

市民の塩分摂取量の把握を特定健診に導入するのか、市内大学機関などへの調

	査協力が進められるのか、スーパーや飲食店に真摯に説明をする努力を検討すべきである。
備 考	こっそり減塩作戦ではご理解のいただけるスーパーや飲食店に対して丁寧に情報共有を図っていることがわかり、成功するポイントとなっているのだろうと考えました。

6 参考資料

- (1) 食を通じた生活習慣病予防事業（三条市提供資料）
- (2) 三条市福祉保健部健康づくり課パンフレット（三条市提供資料）

令和5年度 環境厚生常任委員会行政視察報告書

1 参加委員

(委員長) 花田 慎 (副委員長) 岡崎 進 (委員) 豊嶋 太一 (委員) 清野 匡志
(委員) 今井 理華 (委員) 新倉 慎二 (委員) 山崎 広子

2 視察日時

令和5年11月9日(木曜日) 午前9時30分から午前11時30分

3 視察先

新潟県見附市

4 視察事項

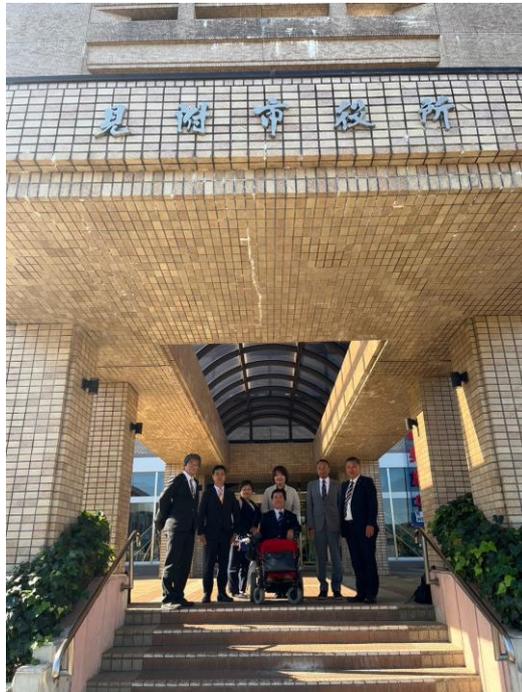
(1) スマートウェルネス みつけの取り組みについて

5 視察概要

	(担当 山崎広子)
視察先選定理由	<p>新潟県は健康づくり県民運動「健康立県プロモーション事業」があり、食、運動、デンタル、たばこ、早期発見早期受診で5つのテーマ別に健康づくりを展開しており、見附市においても独自に思考を凝らした施策を展開し、継続、進化させた先進的な取組を行っていたため、ご教授いただきたく選定した。</p> <p>神奈川県では平成29年3月「かながわ未病改善宣言」を発表し、健康寿命を延ばすため「未病を改善する」取組を進め、全ての世代が未病を考え行動しライフステージに応じた未病対策を進めているが、茅ヶ崎市においてその施策が市民に浸透しておらず、高齢化社会にあって重要な施策を取組めるよう提言に活かしたい。</p>
内 容	<p>身体面の健康だけではなく、市民が生きがいを感じ、安全で豊かな生活を送れるように「健康」「幸福」を求め『健幸 けんこう』と位置づけ、食生活、運動、生きがい、健(検)診の健康づくり4本柱を基本としたまちづくりの実現に取り組んでいる施策についてご指南いただいた。</p> <ul style="list-style-type: none">・高齢化率が進む中で健康な高齢者でいていただくことで様々な費用が抑えられる。健康施策推進として運動に力を入れ健康運動教室は平成14年からスタートしており市の重点施策として進化させた施策の結果、介護認定率が全国、新潟県より低い数値である。(添付資料参照)・運動未実施の市民65%を参加に導くため社会参加できる仕組みとして、小学校区に地域コミュニティ組織を設立させ、協働にて歩ける歩行空間を模索し実現。・長年ぶれることなく『健康施策』『健幸』『地域再生』にて地方創生が実現。

平成29年国交省のコンパクトシティ大賞、平成30年先進的なまちづくりシティコンペ受賞、令和元年SDGs未来都市に選定された。

今後も市民が健幸かつ生きがいを持ち生活を営み、医療費の抑制ができるように当施策を市民と取組んで行くとの力強い担当者の言葉で視察を終了した。



行政視察後、市役所隣の「まちの駅」「健康の駅」
市民交流センター ネーブルみつけにある健康運動教室を視察



考 察

見附市の人口 38,881 人 世帯数 15,277

茅ヶ崎市の人口 245,569 人 世帯数 107,363

医療の進歩で平均寿命が延び、健康寿命が平均寿命以上に延びないと、日常生活に制限が伴い、生活の質の低下や介護の負担が大きくなる。医療費や介護給付費についても増加の一途を辿っており、財政圧迫の一因となっている。そのため、健康寿命を延ばすことは日本、本市にとって喫緊の課題となっている。

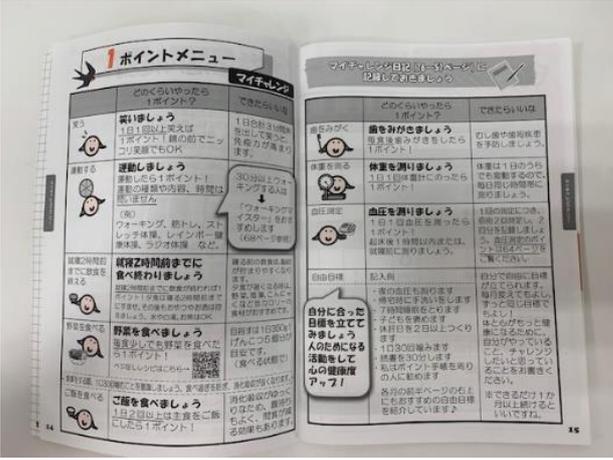
	<p>健康寿命は市民一人ひとりが努力をしないと延ばすことは困難である。地域住民が健康に関心を持ち、健康の取組に対して、積極的に参加したくなるような取組を構築することが今後も必要であると考え。</p> <p>本市において、令和5年度はちがさき健康チャレンジ事業が展開されており、継続性が求められるが、見通しがたっていない状況である。</p> <p>個別計画はあるものの、総合計画や実施計画に具体的に健康寿命延伸施策の位置付けがされていないので、当行政視察を参考に政策提言に活かして行きたい。</p>
備 考	

6 参考資料

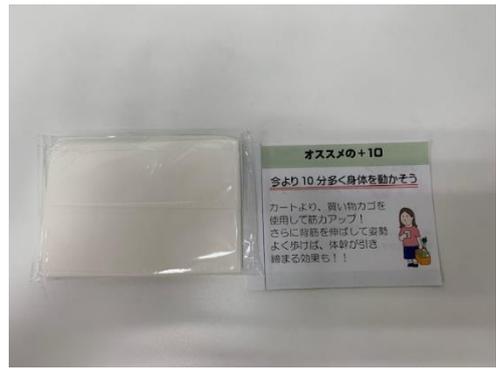
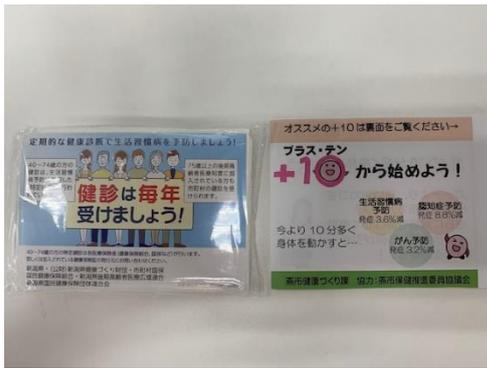
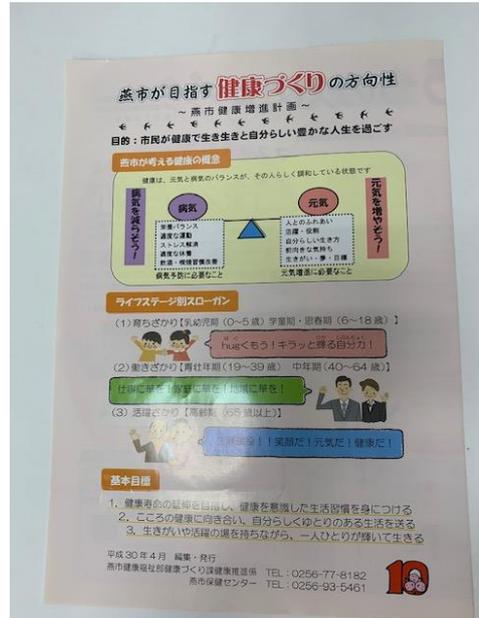
- (1) スマートウェルネスみつけの実現に向けて（パワーポイント資料）（見附市提供資料）

令和5年度 環境厚生常任委員会行政視察報告書

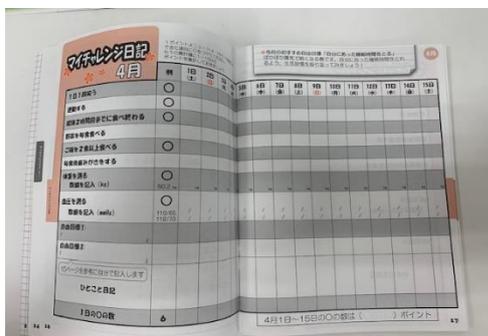
- 1 参加委員
 (委員長) 花田 慎 (副委員長) 岡崎 進 (委員) 豊嶋 太一 (委員) 清野 匡志
 (委員) 今井 理華 (委員) 新倉 慎二 (委員) 山崎 広子
- 2 視察日時
 令和5年11月9日(木曜日) 午後2時30分から午後4時00分
- 3 視察先
 新潟県燕市
- 4 視察事項
 (1) つばめ元気ががやきポイント事業について
- 5 視察概要

視察先選定理由	(担当 今井理華)
内容	<p>「つばめ元気ががやきポイント事業」は、市民が積極的に参加できるような工夫がされており、10年も続いている。茅ヶ崎市でも、健康ポイントなどはあるが市民の認知度が低いため、先進事例に学び政策提言に活用するため選定した。</p> <p>事業概要</p> <p>市民が健康で生き生きと自分らしい豊かな人生を過ごすことを目的とし、ライフステージ別にスローガンを掲げ、様々なポイントメニューを用意して、貯めたポイントによるインセンティブも多種あることで幅広い年齢の市民が参加しやすくしている。また、短期間のチャレンジや小学校の夏休みでの取組など、参加へのハードルを下げる工夫もされている。</p> <p>効果</p> <p>延べ9万人が参加している。 参加者が少ない年齢層の方にも参加してもらえるような様々な取組を行い、多くの年齢層の方が参加していた。 アンケートで、「運動習慣がついた」「健康を意識するようになった」の人数が増えた。</p> <p><ポイントメニュー></p> 

<周知啓発チラシ>



<マイチャレンジ日記>



<p>考察</p>	<p>燕市の取組は「楽しみながら、気づいたら自然とできちゃってた」となる仕掛けができており、繰り返し検討を重ねながら、事業を継続して展開し、広く市民に浸透していることが、本結果へとつながっている。</p> <p>本市での健康寿命延伸事業においても、難しいことではなく簡単なことから、誰でも参加しやすく、楽しんで続けられる事業となるよう、当行政視察を参考に政策提言に活かして行きたい。</p>
<p>備考</p>	

6 参考資料

- (1) 燕市健康増進計画リーフレット
- (2) つばめ元気かがやきポイント手帳
- (3) こども手帳
- (4) ポケットティッシュ

令和5年度 環境厚生常任委員会行政視察報告書

1 参加委員

(委員長) 花田 慎 (副委員長) 岡崎 進 (委員) 豊嶋 太一 (委員) 清野 匡志
(委員) 今井 理華 (委員) 新倉 真二 (委員) 山崎 広子

2 視察日時

令和5年11月10日(金曜日) 午後1時30分から午後2時40分

3 視察先

埼玉県北本市

4 視察事項

(1) もっと歩こう もっと知ろう きたもと「めざせ! 毎日1万歩運動」について

5 視察概要

	(担当 新倉真二)
視察先選定理由	<p>埼玉県内では健康長寿を目指した、様々な先進的とみられる健康増進医療費抑制への取り組みが散見される。特にさいたま市近郊でみられる種々の取り組みは、市の規模や大都市近郊であることなど茅ヶ崎市に近い条件の中で行われていることから、また同地域で複数の市を視察可能であることから候補の一つとなったものである。</p> <p>残念ながら受け入れ市側の都合によりこの北本市のみとなったが、持ち歩きやすい端末とポイント付与によるインセンティブを用いて早くからウォーキングを市民に薦め健康寿命と平均余命の差など数値化された健康長寿の成果を出していることなどから先進事例として参考となる点を多く見出せるものと考えられる。</p>
内 容	<p>平成27年に医療費抑制が実証された健康長寿埼玉モデル「毎日1万歩運動」を導入。身体活動を意識し、積極的に運動を継続できる市民やコミュニティを増やすことで、市民全体の健康寿命の延伸と、医療費の抑制を目指す。</p> <p>(1) 通信機能付きの活動量計を身に付け、参加者が各々のペースでウォーキングを行う。</p> <p>(2) 市内12か所(令和5年11月現在)に設置された歩数データ送信端末(かざすくん)に活動量計をかざし、各自の歩数等を見える化することで継続の意欲を向上させる。</p>

(3) ウォーキング等の状況によりインセンティブとして健康ポイントを付与し、景品が当たる抽選を実施する。

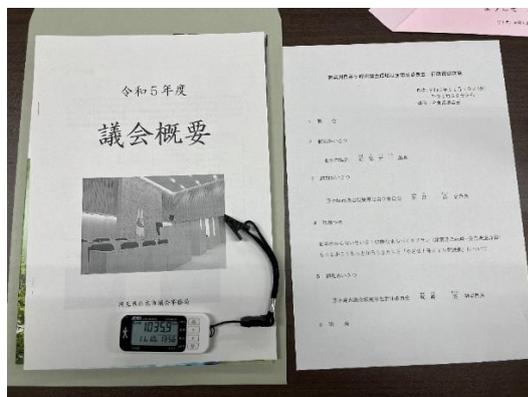
【参加条件】市内在住または在勤の18歳以上の方健康上、歩くことに支障がない方、市が指定するシステム会社から活動量計を購入する方、定期的に歩数データ送信ができる方、本事業の内容に同意いただける方

【参加者数】1,412人(令和5年4月1日現在)

- ・健康意識、食事バランスの配慮などに改善が見られた。
- ・健康寿命と平均余命の差など数値化された健康長寿の成果が出せた。
- ・コロナ禍の中でもウォーキングという運動の特性から成果があった。

今後の課題

- ・埼玉県内では高いものの参加者の拡大には課題がある。
- ・参加者の競争によるインセンティブは効果があったがオーバーワークを心配するほどのウォーキング(4万歩)を行う方が出現した。
- ・高齢福祉課の取組みとの連携はさらに進める必要がある。



	
<p>考 察</p>	<p>北本市の人口 65,403 人 世帯数 30,558 茅ヶ崎市の人口 245,569 人 世帯数 107,363</p> <p>インセンティブ付与を行うことでウォーキング等のスポーツへの参加と健康意識の拡大、健康寿命を伸ばす取組みについては本市において令和5年度、ちがさき健康チャレンジ事業が展開されており、今後どう継続・展開していくかが課題となっている。</p> <p>参加者の競争によるインセンティブに効果があったことはオーバーワーク対策を必要とするものの導入を検討すべき好事例と考えられる。</p> <p>スポーツ推進課との連携など当行政視察を参考に政策提言に活かしたい。</p>
<p>備 考</p>	

6 参考資料

- (1) もっと歩こう もっと知ろう きたもと「めざせ!毎日1万歩運動」
(パワーポイント資料) (北本市提供資料)